

山城小学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

- 一人ひとりが輝き、自ら「考え」「助け合い」「きたえる」児童の育成
 ①自分の考えを豊かに表現できる力を育成する。
 ②自ら進んで学習に取り組む態度を育成する。

校長

大岩 秀次

学力向上推進員

大久保 智美

【各校の取組状況の把握について】

管理職による授業参観や報告等、様々な機会を捉え、取組み状況の把握を行う。

◎次の(1)～(3)をバランスよく取り組み、学力の向上を推進

(1)知識・技能の習得

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
<p>○指示された課題に対して素直に取り組み、やりきることができ、できることを増やそうと努力できる。</p> <p>●学力の二分化までではないが、基礎学力にばらつきがある。理解する速度や深さが個々で違っている。</p>	<p>読み書き計算に習熟した子ども</p>	<p>・学期末のごとに漢字計算検定を実施し、学期に習った漢字や計算について、全員が85点以上をめざし、合格できるようにする。</p> <p>・ICTのアプリで漢字の書き順や読み計算の練習時間を確保したり、ドリル学習を行ったりして、朝の活動の時間を活用する。</p> <p>・復習プリントを授業や家庭学習に取り入れ、既習内容を想起したり定着させたりする。</p>	<p>・漢字計算検定は他のまとめ学習と組み合わせて効果的に取り組む。</p>	<p>・学期末ごとの漢字計算検定については85点を目指して学習に取り組むことができている。</p> <p>・ICTアプリではタイピング練習や漢字練習ソフトを使うことが多く、基礎的な力を養うことができている。また、家庭に持ち帰ることでタイピングや基礎問題の補充ができるように工夫した。</p> <p>・復習プリントについては宿題に出すことができ活用できている。また、その日の復習についても活用できた。</p>	<p>・漢字計算検定については、基礎的な力をつけるためにも、来年度も引き続き取り組みたい。目標点数については、学力差も考慮して、検討事項である。また、個人の能力に応じた問題の作成も検討したい。</p> <p>・ICTの活用については、教職員で話し合いの場を持ち、有効な活用方法を考えていく。個に応じた活用法があれば試していく。</p> <p>・書く活動も必要なので、書く活動は減らさないようにする。</p>

(2)思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
<p>○経験や学習を生かして、自分の伝えたいことを表現しようと努力している。</p> <p>●書く力が十分に身につけていない。わかりやすく話すことができていない。</p>	<p>根拠を明らかにして、自分の考えを表現し、相手に分かりやすく伝えることができる子ども</p>	<p>・児童の思考力を深めるための発問を工夫をする。</p> <p>・学年や発達段階に応じた表現のモデルや手本になる話型を提示し、活用する機会を増やす。</p> <p>・ペア及び3人組で話す活動を取り入れるなど表現する機会を増やしていく。</p>	<p>・学習活動のあらゆる場面で取り組めるよう工夫をする。</p>	<p>・発問を工夫していくことで、思考力が深まっていったと感じる事例がたくさんあった。特に社会・算数科の授業では顕著である。</p> <p>・手本やモデルについては、教師の例示だけでなく、児童の作品のよいところを提示するなど、多様な例示を設けた。</p> <p>・ペアでの話し合いは、意識して取り入れることができた。マンネリにならないこと、伝え方に工夫をさせることにより、より深まっていくと思われる。</p>	<p>・教師の発問については、引き続き、工夫をしていく。教科指導時をはじめ、生活の中でも、意識をして声かけをしていく。</p> <p>・手本やモデルについては、書いたもの、話したこと、身振り手振りなど、いろいろあるので、生きて使えるものをたくさん提示・例示できるようにしておく。</p> <p>・ペア学習については、次年度も工夫して取り組む。</p>

(3)主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況(○よさ・●課題)	具体的目標(目指す子供の姿)	具体的方策(教員の取組)	中間期の見直し	達成状況(評価)	次年度における改善事項
<p>○学習課題に興味を持って取り組む児童が多い。分かることを進んで発表しようとする意欲がある。指示されたことはしていぬにする。</p> <p>●指示されたことはしていぬにしているが、自主的な行動は少ない。学習の準備や片付けができない児童がいる。</p>	<p>進んで学習し、意欲的に取り組む子ども</p>	<p>・自主学習に取り組ませる。</p> <p>・教師のコメントや評価については、次の意欲に繋がるように花丸を増やすなど、積極的行動支援(PBS)の考え方を取り入れる。</p> <p>・ほめる機会と場面を増やす努力をする。</p> <p>・作品紹介コーナーを積極的に活用する。</p>	<p>・ポジティブな声かけをし、意欲を喚起する。</p> <p>・授業の導入を工夫し、学習意欲を持たせる。</p>	<p>・自主学習について、学年の実態に合わせて、工夫して取り組むことができた。自分に合った学習に取り組む態度が身につけてきている。</p> <p>・PBSの研修を受け、ポジティブな声かけをするようにした。児童間でも前向きな声かけ合いができるようになってきている。リフレーミングの学習も有効だった。</p> <p>・ほめる機会と場面を増やすことができた。</p>	<p>・ほめるきっかけ作りも教師が形作っていく。上手いことについては共通理解を図り、次につなげていく。</p> <p>・積極的行動支援(PBS)の考え方を引き続き取り入れていく。</p> <p>・リフレーミングの学習も有効なので、取り入れる機会をつくる。</p>